



# 新任医師の紹介

4月より後任医師8名、研修医12名が着任いたしました。

- ① 専門分野
- ② ご挨拶



あさかみ たかひろ  
阿座上 隆広 (消化器内科)

- ① 消化器内科(肝臓)、肝癌
- ② 主に肝疾患を担当させていただきます。ガイドラインに準拠した治療を心がけています。



せお しんご  
瀬尾 信吾 (外科)

- ① 消化器外科、肝胆膵外科
- ② 歴史ある呉共済病院にて働く機会を頂き、大変嬉しく思っております。少しでも皆様のお力になれますよう努めてまいります。どんなことでも気軽にご相談ください。



うらべ あさこ  
卜部 麻子 (腎臓内科)

- ① 腎臓内科
- ② 4月より腎臓内科に赴任しました。地域の皆様に貢献できるように尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。



おぐら かずま  
小倉 一真 (泌尿器科)

- ① 泌尿器科
- ② 2022年4月より泌尿器科に着任しました。呉の地域医療に貢献出来ればと思っております。よろしくお願いいたします。



※次のページに続きます。

## —病院の理念—

高度・良質の医療  
最善の奉仕  
研鑽と協調  
地域医療の支援

## —病院の基本方針—

- 一 良質で適切な医療の提供に努めます
- 二 患者さんの権利を尊重し 患者さんの満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し 常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として 地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します

# 新任医師の紹介

- ① 専門分野
- ② ご挨拶

やなぎだ だいすけ  
柳田 大輔 (麻酔科)

- ① 手術麻酔
- ② 患者さんの安全だけでなく、できる限り不快な思いをしない麻酔を心がけています。よろしくお願ひします。



おとはら まさや  
乙原 雅也 (呼吸器内科)

- ① 呼吸器内科
- ② 4月より呼吸器内科に赴任しました。丁寧な診察を心がけ、地域の患者様、呉の医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。何卒宜しくお願ひ致します。



はやし けんたろう  
林 健太郎 (循環器内科)

- ① 循環器内科
- ② 初めまして。この度、2022年4月より循環器内科に赴任しました林健太郎と申します。地域の皆様の健康や安心に貢献できるよう日々精進して参ります。よろしくお願ひ致します。



やなぎだに ひろき  
柳谷 紘輝 (腎臓内科)

- ① 腎臓内科
- ② 4月より腎臓内科に赴任しました。患者さんに寄り添う姿勢を大切にし、呉の医療に貢献できるよう努めて参ります。何卒よろしくお願ひ致します。



どうぞ宜しくお願ひ致します



# “IBD（炎症性腸疾患）チーム” を紹介します！！

消化器内科 医長 吉岡 京子

炎症性腸疾患（inflammatory bowel disease：IBD）とは、潰瘍性大腸炎やクローン病、腸管バネレット病などの腸に炎症がおこる病気で、下痢、血便、腹痛、体重減少、発熱などの症状が出ます。免疫の異常で発症することが解明されつつありますが、まだまだ分からないことが多い病気です。風邪のように治る病気ではなく、じっくり向き合って付き合っていく病気です。

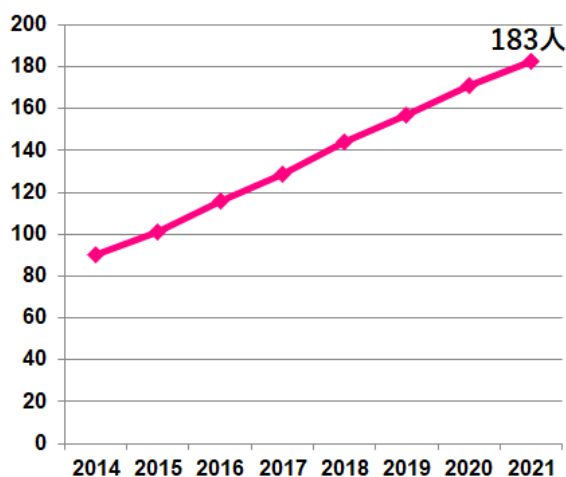
最近では患者さんの数が増えてきており、意外に身近な方がこの病気だったということはよくあります。以前はお薬があまりありませんでしたが、最近ではいろいろなお薬が使えるようになりました。

IBD チームは、ずっと病気と付き合っていくため、病気に対する様々な思いや、生活でのターニングポイント（進学、就職、妊娠、出産など）での悩みなども含めて、病気のこと、生活のこと、治療のこと、食事のことなど、一緒に考えていくチームです。医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、事務などで週1回集まってより良い医療の提供を目指していろいろ話し合いをしています。

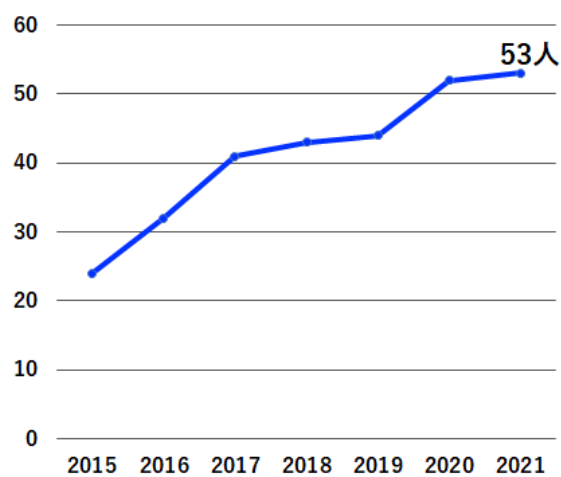
今だけ良ければ良いのではなく、60年後振り返った時、やっぱり良かったと思える医療を目指してより良い治療環境づくりを行いたいと考えています。

## 当院のIBD年別受診数

### 【潰瘍性大腸炎】



### 【クローン病】



## 🌸 チームメンバーより 🌸

- 医師： 病気・治療・今後のこと、何でも話し合っ一緒に決めていければと思っています。
- 看護師： 看護全般を行っています。日常生活での困りごとなど何でも相談してください。
- 栄養士： 栄養指導や、炎症性腸疾患食としての治療食も提供しています。
- 薬剤師： 薬で分からないことがあれば相談してください。
- 検査技師： 消化管に特化したエコー、会陰部エコーなども行っています。
- 事務： 難病患者さんが生活する上での体験談をまとめています。

# 2022年4月に核医学検査装置が新しくなりました

放射線部 核医学（RI）検査室

## 核医学検査ってどんな検査？

核医学検査は放射線医薬品を静脈から投与し、臓器や組織に集まったところから微弱に放出する放射線（ガンマ線）を専用のカメラで撮影することで体内の様子を調べることができます。撮影は検査台に寝ているだけで終わりますが、検査する部位により15～60分程度かかります。

放射線を出す薬品を注射するので被ばくが気になりますが、被ばくの量はCT検査とほぼ同じぐらいです。注射された薬は、一度は臓器に集まりますが、早いもので数時間、遅くても数日で体内から排出したり、放射線が弱くなり消えていきます。注射する薬の量も1～2ml程度の少量なので、副作用が起こる可能性は非常に低く、安心して受けてもらえる検査です。

## 核医学検査で何が分かるの？

骨、心臓、脳、甲状腺、腎、肺、副腎、唾液腺などの臓器や組織の形態だけではなく、機能や代謝状態などを評価することができます。その中でも心臓、脳について紹介します。

心臓の核医学検査は狭心症や心筋梗塞などの血液の流れが足りない心臓の筋肉の場所がどこか、その心筋細胞は生きていて、治療で治る見込みがあるかどうかを診ることができます。また、治療した後の経過を見るためにも必要な検査です。

脳の核医学検査は脳の血流の異常を調べることができます。脳のわずかな血流の変化を見つけることによって、アルツハイマー病、レビー小体病といった認知症や変性疾患の診断に非常に有効な検査です。

2022年4月の検査装置更新により、以前より撮影時間が短縮され、CTやMRIの画像との重ね合わせができ、診断に役立てられています。検査室・待合室も明るくリニューアルされ、検査室の天井は、空をイメージした壁紙となっていて、リラックスした状態で検査を受けていただけるようになっています。待合室もエアコンとテレビが完備され、御手洗いや洗面台も快適に使えるようになりました。また、昨今のコロナ禍により、検査室に空間の除菌・脱臭ができる機器を置いていますので、安心して検査を受けていただけるようになっています。

